

経済建設委員会からの政策提言に対する回答について

(経済部観光課・教育委員会文化課)

提言をいただきました、小早川隆景・浮城というコンセプトに基づいた戦略、プロジェクト構想及び新たなターゲット層については、観光戦略プランのリーディングプロジェクトの一つとして、DMCの(株)空・道・港とも連携し、その部会などで活用を検討することとし、具体的な各提案については、次のとおり回答いたします。

【提案1】隆景歴史館を作る

【背景】本市の歴史や街の成り立ちを伝える拠点となる場所や施設が駅周辺になく歴史を身近に感じてもらえない

【具体的手段】隆景歴史館（JR三原駅構内 300㎡を活用）の設置

(回答)

JR三原駅周辺の市中心部につきましては、将来に渡って市を支えるエリアとしての発展をめざした、グランドデザインの将来構想に沿って整備が進められております。

今回の提案を受け、令和2年12月にJR西日本との協議を行い、駅構内の整備については、管理者であるJR西日本の駅整備方針(せとうちパレットプロジェクト)や、このグランドデザインのコンセプトに沿った、エリアでの統一感ある整備が求められるものとして、中・長期的に検討していくべきであるという方向性を確認しました。

三原駅が三原城本丸跡を横切るように建てられているという特殊性は、歴史的観点からも活用すべきものですが、多額の改装費とランニングコストを伴う整備については、慎重な検討が必要であると考えております。まずは、三原の歴史を感じる展示や映像の放映等、スモールスタートから取組を進め、適宜、JR西日本や関係者と、三原駅及び周辺の魅力向上につながる協議を重ね、DMCの(株)空・道・港とも連携し検討を進めてまいります。

【提案2】三原城の街割り巡りの実施

【背景】歴史や文化を味わいながら興味を持って散策することができず、リピーターにつながっていない

【具体的手段】

- ・ヒアラブル端末の活用
- ・古地図アプリの活用
- ・地図表示板の設置

(回答)

ヒアラブル端末につきましては、導入検討のため、令和2年10月に、デモ体験と開発事業者協議を実施し、1台あたり利用料1,500円で1日10台を3回転とい

う採算ベースの目安が示されました。1,500円という利用料と延人数1日30人という数値から、現時点での導入は困難であると判断しております。

古地図アプリの活用につきましては、これまで、アプリ版で提供しておりました「三原地図さんぽ」（古地図情報）が、令和2年度末からWEB版での提供となります。この活用を促進するとともに、地図情報にアクセスするQRコードの看板等への設置を順次進めてまいります。

地図表示板の設置につきましては、令和2、3年度の2ヵ年で、歩行者系案内看板6箇所、地図案内看板1箇所を駅周辺に整備する予定としており、史跡、寺社等の周遊を促進してまいります。

【提案3】 濠の整備，水質浄化対策を実施する

【背景】 現在は水が濁っており，観光客が見て美しさや癒しを感じてもらえる状況となっていない

【具体的手段】 還流ビオトロン方式による浄化

(回答)

市では毎月10日程度天主台と中門の濠の清掃業務委託を行い、ごみ拾いを行っております。昨年6月には、広島経済同友会三原支部主催で藻の除去作業を行い、990kgの藻を除去しました。年度内には業務委託で天主台濠の水草の除去を予定しております。また来年度は市民協働で参加型イベントを計画しております。

水質浄化については、還流ビオトロンのほか他団体からも提案をいただいております。内容を確認のうえ、合理性・経済性等を検討していきたいと考えております。

【提案4】 効果的な情報発信を行う

【背景】 提案1から提案3により，中心市街地で歴史を感じてもらえる施策を推進できるが，本市の認知度の低さを克服するため，訴求力を高める情報発信の手段を講じていく必要がある。

【具体的手段】

- ①キャラクターを活用したプロモーション
- ②映像を活用したプロモーション

(回答)

①キャラクターを活用したプロモーション

「歴女」というターゲットへの訴求力向上とその費用対効果、また継続性の観点から、ゲームメーカーのキャラクター活用は難しいものと考えております。

それに代わるものとして、毛利三兄弟のふるさとである、安芸高田市、北広島町とともに、1市2町での広域観光や、地域資源の相互活用に取り組んでいる「三矢の訓」連携の活用を検討しております。全国的にも知名度の高い「三矢の

訓」のストーリーを活用し、歴史の魅力を伝えるプロモーションや旅行商品造成に、DMCの(株)空・道・港とともに取り組んでいきたいと考えております。

②映像を活用したプロモーション

今年度、観光クルーズ船内でPR動画を上映していただき、引き続き上映を依頼します。また、今年度末、三原駅前及び三原港にデジタルサイネージ、マリンロードにICタグをそれぞれ設置し、本市の観光拠点、歴史、イベント等の情報を発信し、周遊促進を図ってまいります。

加えて、DMCの(株)空・道・港において、公式インスタグラム、公式YouTube、WEBマガジン等を通じ、三原の魅力を伝え、認知度向上をめざすプロモーションが実施されております。